

魔法のプロジェクト2021活動報告書

報告者氏名: 大木洋美 所属: 函南東小学校 記録日: 2022年2月22日

キーワード: 「心理的安定」「自己理解」「他者理解」「学習意欲」

【対象児の情報】

・学年/小学3年生の男児

・障害名/アスペルガー症候群

・障害と困難の内容

様々な要因で感情の起伏が生じ、大声で数十分泣き続け、生活や学習に大きく支障をきたしていた。

・使用した機器

Pad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

対象児に、泣くのは悪いことばかりではないこと、実際に達成できたことよりも、困難をもちながらも学びに向かうことが大事だと提案していきたくて考えていた。過去には、周囲が大泣きする対象児を宥めてその場を収めようとした結果、対象児自身は、やり遂げたいという思いと負担感との狭間で踏みとどまろうとしていたのに、課題を回避する方向にもって行ってしまったように思う。

もっと対象児の困難の背景に目を向けて、不適応が予想される場合に、何らかの対処の準備をして学習活動を進める必要があると考えた。また、感情の起伏(泣く時間)と授業時刻帯の関連が顕著であることが、日々の記録から分かったので、時間帯に応じた支援の工夫もしてみたいと考えている。これらの工夫を試みたくて、対象児の適応がどのように変化するか観察することを目的とし、ねらいを以下の3点にした。

- ① 小集団の活動を通して、他者の感情に気付いたり、関わり方を経験したりして、環境に調和しようとする。
- ② 自己調整して課題にも取り組み、学年相応の学習に取り組む。
- ③ 体を動かす機会を増やし、健康な生活習慣を心掛ける。

・実施期間

iPad や Chromebook を使って各教科・特別活動における学習支援を行った。

実施日は 2021年4月6日～2022年2月22日。

・実施者

大木洋美(特別支援学級担任)

・実施者と対象児の関係

特別支援学級の担当教員



↓感情の起伏の頻度(R3.6) 黄色

月日	曜	自立 下校	1時間 目	2時 目	3時間 目	4時間 目	5時間 目	6時間 目	立 時 間	授 業 数	備考 感情の起伏の箇所等
6/22	火	○	校外	校外	校外	20			20	5	5 校外学習で疲れた
6/23	水	○	参観	参観	30	15			45	5	4 保護者の前でがんばって疲れた。保護者と別れたくない
6/24	木	○			35				35	5	4 4 次席で明日の校外学習の話を聞くのが辛い。
6/25	金	○	15	校外	35				50	5	1 1 卒業統一テスト練習をやりたくない。4 高広直登見事で、待つのが辛い。
6/28	月	○		交流社	10				10	6	4 4 線画ハモニカの指使いが難しい。
6/29	火	○		交流社	3	20	30		53	5	3 3 交流で疲れた。4 計算ドリルをやると疲れる。5 体育ドリルが難しい。放課後友達と遊ぶ約束。
6/30	水	○	外周給	10					10	5	2 2 体の血がからり下りて疲れた。
7/1	木	○	体育	10	15				25	5	1 1 一日用 28 くり下がり2つの単語で疲れた。

対象児はユニークな面白さを持ちながら、頻繁な感情の起伏に困っていた。

【活動内容と対象児の変化】

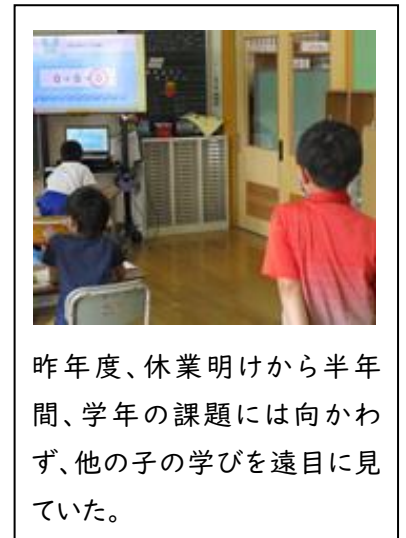
1 対象児の事前の実態

<生活面の実態>

- ・集団行動や一斉授業への負担感が大きく、環境の変化に対応しきれず、感情が大きく混乱する。騒音、空腹、倦怠、疲労、気温の変化をきっかけに気持ちが不安定になり、学習活動や人間関係の成立が難しかった。
- ・2年生から特別支援学級(自・情)に入級し、魔法の Medecine 取り組みを行った結果、心理的に安定した学校生活時間を増やしていった。現段階では、集団生活の流れやルールの大体の認知はできているが、だからといって調和はできないという状況にある。
- ・交流学习を一切できなかったことや、登下校は保護者の送迎、休み時間・帰宅後も教室で過ごしていたため、対大人での生活で、友達との関わりが希薄になってしまった。

<学習面の実態>

- ・昨年度の学校休業明け当初は、教室にいること自体が難しかった。教室にいても、自分発信での活動(学校から自宅までの絵地図をかく。戦闘ヒーローの絵を描く。)をしながら他の子が学習しているのを遠目に見ていた。後半期では、魔法の Medecine での介入により、興味関心のある対象と教科・領域の目標とをすりあわせた課題であれば取り組めるようになってきた。
- ・自分なりのやりたい方法、慣れ親しんだ材料・道具への強いこだわりがあるため、初めて行う活動や触れるものへの不安感や不信感が高かった。加えて、できない自分、戸惑う自分を許せない気持ちが強くて、投げやりになったり号泣したりするので、系統的に学習を続けたり、技能を習得したりする機会を逸していた。しかし、そうした特性に即して、映像や画像での課題や活動の概要を提示することで、現在は、個人で取り組めるものであれば、断固拒否というのは減っている。
- ・交流学习や学校行事への参加が困難であったため、体育・音楽・生活科(外国語活動)の学習空白がある。





昨年度、休業明けから半年間、学年の課題には向かわず、他の子の学びを遠目に見ていた。



<健康維持の実態>

- ・空腹による不快感で感情が大きく起伏することが分かり、11月から間食(10:10~持参したおにぎり)を始めた。心理的な安定に関しては相当な効果があった。一方、急激な体重増加を招いてしまった。
- ・保護者が登下校を徒歩の送迎にしたり、主治医と相談して食欲を増進しにくい処方してもらったりしている。

2 活動の具体的内容

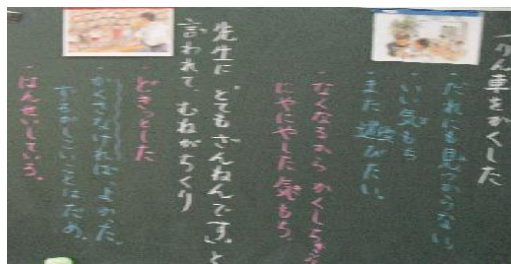
① 小集団の活動を通して、他者の感情に気付いたり、関わり合い方を経験したりして、環境に調和しようとする。

困難の原因の推測	手立てと期待できる効果	アプリ・自助具・教材、参考文献	期間や時期
<p>対大人の間人間関係が多く、他者の感情や状況を意識しなくても許容されていた。</p> <p>一方、「お話の中でわかったこと」と「自分の周りのこと」がなかなか一致しづらく、「上から」の言動をしやすい。</p>	<p>【手立て1】道徳の授業で、教材文を読んだ後、場面絵や顔の表情を示しながら登場人物の気持ちを考えていくことで、他者にも感情があることに気付く。</p> <p>日常生活の場面で、状況と、それぞれの発言、思いを棒人間と吹き出して可視化したものを認知していく。言葉だけだと通り過ぎてしまうものを焦点化し、「他者の気持ち」に気付くために、「自分の気持ち」に気付く。</p>	<p>道徳デジタル教科書「コミック会話」 ブギーボード</p>  <p>コミック会話 日常のコミュニケーションの ヒントを学ぶ コミック会話 Comic Ship Conversations</p>	<p>道徳 週1回</p> <p>日常的に ブギーボード (電子メモ)</p> 

<p>集団生活の流れや ルールの認知はできる し分かっているが、調和 はできない。</p>	<p>【手立て2】ゲーム等を行う場面などで進行役 になり、順番やルールを子供同士で話し合っ て決めていくことで、他者との合意形成の仕方を 身に付けていく。</p>	<p>特別支援学校教育 要領・学習指導要 領解説 自立活動 編「ドラえもん日本 一周」「人生ゲーム EX」</p>	<p>自立活動の 指導 週2回</p>
<p>慣れない環境や対人 関係、行事の進行など の見通しの立たない不 安感が高い。 興味のないものを視 聴し続けるのが辛い。 音楽やアナウンスによ って、より大きな不快を 感じる。</p>	<p>【手立て3】 交流行事などの事前に、前年度 の画像を見て、おおよその見通しや予想される 不適応の要因や対処法について認知すること で、抵抗感への見通しをもって参加できる。 集会、発表会などでは、別室でタブレットの リモート配信を視聴できる環境にしておく。辛 かったら集団から離れ、視聴しているうちに会 場に戻れそうなら戻る。参加方法の選択肢か ら苦手な場面での自己調整ができる。</p>	<p>写真  GoogleMeet </p>	<p>社会科見学 特別支援学 級交流会(学 習・活動発表 会) 運動会</p>

【手立て1】

道徳の板書(赤文字が対象児の発言)



【手立て3】

中学生のソーラン節をライブ鑑賞



【手立て2】

人生ゲーム(手前が進行役の対象児)



【手立て4】

社会科見学画像



〈結果〉

○道徳の時間では、当初は、自分の色の(対象児は赤)板書量が増えていくのを励みに発言をしていた。9月頃には毎回ではないが登場人物の立場で考えるようになってきた。12月ころからは、「～さんと似ていて、」と、友達の意見を聞いて自分の意見を深めようとする姿も見られた。先日「今日の道徳は、〇〇さんと僕の合体した意見で、～の気持ちを答えたね!」と、うれしそうに話していた。

○日常生活では、他者がルールから外れていたたり、取りかかりが遅れたりすると、強い言葉で指摘する姿が見られた。ブギーボードにその言葉を書いて見せながら「正しいことを言っているけれど、どうだろう?」と問うと、「言い過ぎているかもしれない。つい、言っちゃう。」「〇〇さんは嫌かもしれない。」と自分の気持ちに気付いたり、相手の気持ちを考えようとしたりしていた。

- ボードゲームの「ドラえもん日本一周」や「人生ゲーム」では、「銀行員見習い」役に張り切って取り組んでいた。金銭やカードの出納、ルールの確認をする際には、仲間と話し合いながら進行する姿が見られた。
- 交流学习や行事では、遠隔で参加できる環境で参加の仕方を選択できることを知り、困った場面での対応ができる安心感からか、現時点では全てライブ参加している。

② 自己調整して課題に取り組み、学年相応の学習に取り組める。

困難の原因の推測	手立てと期待できる効果	アプリ・番組・教材や教具等	期間や時間
<p>興味関心の幅が狭くて深いため、通常の授業展開では関心・意欲が薄くなりがちなので、自分発信、自己選択の要素が必要である。</p>	<p>【手立て1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元計画のはじめに単元計画作りに参加することで、目指すゴールの姿が共有でき、自らが単元の見通しをもって自己調整をしながら、主体的に学ぼうとする姿勢がもてる。 ・学年の目標に近づけながらも、学習方法や学習アプリを選択していくことで、苦手意識のある課題でも、できそうなことはやろうと自己決定ができる。 	<p>分かる! 小3算数</p> <p>大下先生の 熱中算数教室</p>  <p>漢字ねこニャン 国語海賊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や算数、総合的な学習の時間の単元計画 時間目 15分程度。 ・学習アプリは授業中の10分間程度
<p>初めて触れる物の感触、慣れ親しんでいない方法への抵抗感が高い。</p>	<p>【手立て2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱う道具や用具については、使用方法の映像を見たり、道具や材料に触れたりして、抵抗感を減らす。 ・課題を達成することよりも、課題に向かうとすることが大切であることを共有することで、学びに向かう力をもてる。 	<p>デジタル教科書</p> <p>書写・音楽(リズム)・図画工作</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工(絵の具・のぎり・金づち・粘土かき棒・粘土切糸等) ・書写(毛筆) ・音楽
<p>過集中する傾向があり、取り組んだ後に感情の波が起きる。</p>	<p>・タイマーに学習活動時間をセットして課題に取り組む。45分授業時間内に、関連する学習番組を視聴したり、ゲーム要素のあるアプリをしたりする時間をもつことで、過集中による感情の起伏を抑制する。</p>	<p>授業の構成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語と算数

感情の起伏が起きた学習場面

- ① 試写、書き取り、計算
- ② 新しいやり方
- ③ 問題数の多いテスト
- ④ ゴールが見えない
- ⑤ 過集中後

【手立て1】単元計画の画像
国語3年 説明文



【手立て2】初めに思い描いた物を作りたい対象児が、偶然出来た形から発想して作る過程を了解して。



手で丸めて作りたい

棒で書き出す手法

〈結果〉

○単元の初回には、計画について「漢字は、一日3個覚えて、ドリルは宿題にする。余った時間は漢字アプリをやる。」
 「テストは、言葉と文章とおまけで3回に分けて受けたいな。」「作文は、気分がいいと書いた方が早いけど、直すときに消すのが面倒だから原稿用紙アプリにしておこうかな。」と自己調整をしながら取り組もうとしていた。
 単元のゴールの姿を多少なりと共有できた場合は、抵抗感や負担感が軽減している様子である。例えば、「2年生までは、順序を意識しながら作文を書いていたけど、今回は様子に『自分の思い』を入れた作文を書けるようになってほしい。」に対して、「ぼくって、自分の気持ちが、よく分かんないんだよね。考えると、わあってなっちゃう。」「学校の勉強ってさ、ぼくの好みじゃないものばかりだね。」と言いつつ、以前のように断固拒否ということは無くなった。

③ 体を動かす機会を増やし、健康な生活習慣を心掛ける。

困難の原因の推測	手立てと期待できる効果	アプリ・自助具・教材	期間や時期
<p>元来、体を動かすことより、絵や工作を好む。</p> <p>交流体育や体育的行事に参加してこなかったため、運動経験が乏しく、思うように体が動かない焦燥感があった。</p>	<p>【手立て1】</p> <p>自立活動時間を「健康の保持」を主として設定し、前半を番組で紹介された緩めの運動を、後半に大きく体を動かす運動を取り入れることで、無理なく体を動かす。</p> <p>(外国語に堪能な指導者が)オールイングリッシュにして、通常なら抵抗感のある指示的な声掛けにもリスニング感覚で聞き取り、取り組もうとする。</p>	<p>NHKforSchool ストレッチマン G</p> 	<p>自立活動 体育 週2時間</p>
<p>起床後に感情の起伏が起きて、保護者が教室まで送り届ける習慣になっていたことや、学校生活で心理的な安定が保持できず早退が多かったことから、自主登下校の経験がなかった。</p>	<p>【手立て2】</p> <p>新型コロナ感染症対策の健康観察で、検温、就寝起床時刻、投薬時刻、健康状態等を記録することから、セルフモニタリング機能で基本的な生活習慣を整える。</p> <p>弟の入学を機に、一緒に登下校をしたいと思いますと言い始めていた。送迎を自動車から徒歩に段階的に切り替え、徐々に歩く距離を延ばすことで、自主登下校の自信をもつ。</p>	<p>健康観察カード 保護者のメッセージ</p> 	<p>昨年度5月から毎日 5月から毎日</p>
<p>11月から空腹感解消のため間食を実施。心理的安定には効果があったが、大幅体重増で一層運動が億劫になった。また満腹感が得られない場面で感情の起伏が起きた。</p> 	<p>【手立て3】</p> <p>空腹時や、食後満腹感が得られなかったとき、歯磨きアプリを使うことで気持ちを切り替えていく。</p> <p>「歯磨き勇者」は、一定時間、画面に本人の顔が映り、歯磨きが上手だとポイントが増えるので、ゲーム感覚で楽しめる。</p>	<p>歯磨き勇者</p> 	<p>業間の 休み時間、給食後、 自宅食後</p>
<p>骨盤が後傾し、口が半開きで呼吸が浅く、またそのためか、よく噛まずに食べている。また、体が伸びずに屈曲しや</p>	<p>【手立て4】</p> <p>抵抗感をもたないために、「優劣」「勝敗」の要素が少なく、用具や場所を選ばない、ゆっくりしたヨガやストレッチのような動きに取り組む。</p>	<p>松江市 かしこい体プログラム タオル、テニスボ</p>	<p>自立活動・ 学級活動の</p>

<p>すいことから、長時間の活動が続きにくかったり疲れやすかったりすることも考えられる。</p>	<p>骨盤を起こすことで呼吸が深くなり、筋肉がほぐれて気持ちがいい、体を動かすと気分転換になる、という感覚を積み重ねることで、自分の体への気付きが生じる。</p>	<p>ール、バランスボール、レッグマジック</p>	<p>15分間</p>
<p>下校後も、外遊びよりも屋内で絵やゲームをしていて、体を動かす機会が少なかった。</p>	<p>【手立て5】 保護者と相談し、家庭で取り組める「お仕事(お風呂掃除)」を設定する。取り組めたら30円を上限に入金(記載)してもらう。残高増を励みに家庭でも体を動かす機会をもつ。</p>	<p>お仕事通帳</p>	<p>昨年度から毎日</p>

〈結果〉

- 小集団であれば、学習課題に沿ってルールを守ろうとしながら運動することができる。
- 登校は1年生の弟と、下校は他の子供に交じって一人で下校できるようになった。昇降口で、混み合う時間帯に弟を待つのに慣れてきた。
- 新年の目標に「運動する」と書いた。「かしこい体プログラム、次はいつやるの?」と、何気なく聞いてくることがある。休み時間にレッグマジックに乗ったり、屋外に出るようになったりと、座りっぱなしの生活から変容しつつある。

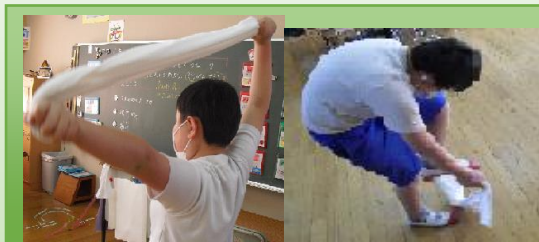
【手立て1】



【手立て2】



【手立て3】



【手立て4】

かしこい体づくりプログラムの活動
タオルを使って。テニスボールを使って。



レッグマジック



1月25日(月) おしごとつうちょう 7

1月	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日

土日につづけておしごとをしたので、750円になりました。バイク代600円をはらっても、まだ150円あります。
ぼくは、おみやげを買いたいと考えています。まあとりあえず、おまんじゅうかなと思います。

【手立て6】家庭での仕事

【報告者の気づき】

- ① 小集団の活動を通して、他者の感情に気付いたり、関わり方を体験したりして、環境に調和しようとする。

エピソード

最近、休み時間には屋外に出て、知的学級の子供たちの鬼ごっこやイカゲームに交じる姿が見られる。以前は支援員と一緒にいたり、他の子がかかわろうとすると不機嫌になっていた。徐々にではあるが、対象児の意識が広がりつつあると感じている。

- ② 自己調整して課題にも取り組み、学年相応の学習に取り組む。

エピソード①

対象児は当初、感情の起伏に浸って、治まった時点では既に課題に向かう環境ではなくなっていることが多かった。今回、単元計画作成の折に、「感情の起伏が治まったら学習を再開する」取り決めを交わした。その後、徐々に泣き声が小さくなっていき、めそめそしながら学習しているようになった。時には「別に怠けたくって泣いているんじゃないんだけどね。」「泣いて、すっきりすることがあるかも。」など、理由や意味を考え始め、自己の気づきにつながった。

エピソード②

校内研修により、リモートでの授業や行事への参加できる環境が整ったおかげで、現地に赴かなくても様子を見られることで、交流のハードルがぐんと下がった。通常では、週に7回程度交流学习に参加しているが、感染症で自宅療養している児童向けに Googlemeet でリモート配信をし続けているのを視聴したり、ロイロノートの提出箱をのぞいたりするようになった。「みんながやってるなら、新聞を書こうかな。」「(通常)クラスのみんなは、テストを45分かけてやるんだねえ。」などと、交流学級と同じ内容や条件を意識する発言があった。

- ③ 体を動かす機会を増やし、健康な生活習慣を心掛ける。

エピソード

8月末、保護者が、日々の記録(感情の起伏時間・体重増加)を根拠に主治医に処方相談をしたことで、食欲増進の副作用の少ない薬に変わった。12月末、「学校生活に適應しているの。」ということで、投薬量が半分になった。減薬による悪影響はない。

【エビデンス(具体的数値など)】

- ① 以下に、静岡県定着度調査(国語・算数)における対象児のテスト得点と、学年の平均点を示す。通常学級と同じ事前テスト練習をして、同日同条件で実施した。結果から、今まで対象児の興味関心のある対象と教科・領域の目標とをすりあわせた学習課題限定だった。自分なりのやりたい方法、慣れ親しんだ材料・道具への強いこだわりがあるため、初めて行う活動や触れるものへの不安感や不信感が高かった。加えて、できない自分、戸惑う自分を許せない気持ちが強くて、投げやりになったり離席したりするので、系統的に学習を続けたり、技能を習得したりする機会を逸していた。そうした困難が緩和されたことから、ほぼ学年相当の学力が身に付いていると思われる。

対象児が自分の学級のメンバーを紹介したもの



自分や友達への気づきを描いたポスター (R3.11)

静岡県定着度調査 R3.1 (2年生)

	本校平均	県平均	対象児
国語	81.6	81.8	84
算数	84.4	89	90

静岡県定着度調査 R4.1 (3年生)

	本校平均	県平均	対象児
国語	84.2	79.8	72
算数	87.1	83.1	80

② 9月末の時点では、対象児の感情の起伏(泣く時間)と授業時刻帯の関連は大きいと思われた。比較的1時間目、4時間目、午後は気分が不安定で、2、3時間目はがんばっているのが分かる。一般的には、1時間目は見通し不安、4時間目は空腹、5時間目以降は疲れが予想されるが、対象児も同様のあらわれがあった。現時点では、心理的に安定している時間がほとんどで、泣くのがまれな状態である。

月日	曜	自立 登校	自立 下校	1時間 目	2時間 目	3時間 目	4時間 目	5時間 目	6時間 目	泣 時 間	授 業 数	備考 感情の起伏の理由
8/27	金	○	○					5		5	4	
8/30	月	○	○		5	10				15	5	1書写に数り組めずGoogleMap 3書写に数り組めず
8/31	火	○	○	20		10				30	5	1書写の半元計画に数り組めない。 2書写に数り組めない。 おもすび
9/1	水	○	○	10						10	5	1半元計画で作った疲れ。 音速 おもすび
9/2	木	○	○		5	10				15	5	2ゲームがいて疲れた 3漢字練習が辛い 雨か音速 おもすび
9/3	金	○	○	20	5		10			35	5	掃除もはまながら 1作文の書に数り組めない。 しがしが疲弊しない。
9/6	月									0	0	家族のアクション編反応にて欠席
9/7	火	重	外重		5					5	5	2作文アプリが起動しにくい。 3教室で11冊往復読
9/8	水	○	○			5	5	10		20	5	3次書写練習の時目少しが熱い。 4書の数算が辛い。 おそろく空襲。

感情の起伏(泣いた)時間 夏季休業明け

月日	曜	自立 登校	自立 下校	1時間 目	2時間 目	3時間 目	4時間 目	5時間 目	6時間 目	泣 時 間	授 業 数	備考 感情の起伏の理由
12/24	金	○	○							0	4	クスリ半量に
1/6	木	○	○				10			10	4	定着度調査練習で負担感が大きい
1/7	金	○	○	5	15					20	4	定着度調査練習で負担感が大きい
1/11	火	○	○								5	
1/12	水	○	○								5	
1/13	木	○	○								5	
1/14	金	○	○								5	
1/17	月	重	○								5	

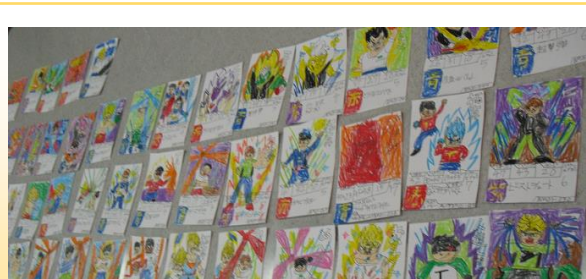
感情の起伏(泣いた)時間 最近

そのほかのエピソード

対象児は、昨年度の「魔法の Medecine」の終わりごろ、「学校とは、先生(自分にとっては関係性のでき始めた人)の勧める学習をし続けるところだ」と認知して、何らかのきっかけで、「自分のやりたいことより、学習を優先するのだ。」と決めたように感じる。



担任や支援員との関係性が築かれてきた。



自分発信の活動は自宅で取り組むようになった。

